



広報

# なは市民の友



## 沖縄のおもてなし 日本遺産に認定



琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」先人たちが紡いできたストーリーが、令和元年度の日本遺産に認定されました。文化財課 ☎917・3501

### 日本遺産とは

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あるさまざまな文化財を地域で活用し、国内外に発信することで、観光誘客を促進したり、地域の活性化に役立てたりしようとするものです。

沖縄県、那覇市、浦添市は共同で「琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」と題したストーリーを申請し、沖縄県では初めて認定を受けました。

### 認定されたストーリー

沖縄県はかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成しました。琉球王国は守礼の邦(礼節を重んじる国)を掲げ、訪れる外国の賓客をもてなしました。

特に中国皇帝から派遣された冊封使の一行は滞在期間が約半年間に及ぶほど大規模でした。宴は国を挙げての重要な行事で、冊封使をもてなす料理や芸能に力を注ぎました。そこで供された宮廷料理や御用酒の泡盛、宴を盛り上げた芸能は、今も沖縄の誇りとして県民に親しまれています。

このように琉球王国時代に育まれた食文化と芸能は、「世替わり」の歴史を映しながら、連綿と続く「守礼の心」で受け継がれています。

### 那覇の日本遺産

琉球王国時代、首里は政治・外交の中心として栄え、那覇は日本や中国、東南アジアとの交易拠点となり王国の発展を支えました。

そのため、市内には琉球王国の歴史と文化を代表する首里城や識名園などの多くの有形文化財や、芸能・工芸技術などの無形文化財が今に伝わっています。また、外国の賓客たちを楽しませた泡盛や豆腐よう、きっぱんなどは今でも人々に親しまれています。

冊封使ら外国の賓客をもてなしたことは、琉球王国の文化の発展につながりました。

今年で誕生から300周年を迎える組踊は、冊封使を歓迎するために玉城朝薫によって創出された、首里城で最初の上演がなされました。そのほか、識名園は琉球王家最大の別邸で、国王一家の保養や冊封使の歓待に利用されました。今でも園内には冊封使が命名した施設や関連する石碑が残されています。



首里城祭での冊封使行列

このように、市には琉球王国のおもてなしの形を伝える有形・無形の文化財が数多く残されているのです。

日本遺産認定について詳しくはこちら→



- 沖縄のおもてなし日本遺産に認定..... 1
- 夏休みイベント情報 / 「なはの日」関連イベント... 2 ~ 3
- 感動は無限大南部九州総体2019 / 情報パック / 博物館トピックス..... 4 ~ 8
- 折り込み紙：国民年金のお知らせ

総人口 321,594人(5,270人) 世帯数 153,347世帯(3,756世帯)  
 男:155,787人(2,777人) ※ ( )内はうち外国人  
 女:165,807人(2,493人) ※ 総人口と世帯数は2019(令和元)年5月末現在



### 祝！日本遺産認定

はいたい ぐすーよー  
ちゅうらがなびら。

琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な琉球料理、泡盛及び芸能などをテーマとしたストーリーが、沖縄県として初めて「日本遺産」に認定されたことを大変嬉しく思っています。

いにしえより受け継がれてきた様々な伝統文化が「沖縄」を舞台に「おもてなしの心」で紡がれ、ストーリーとなる。なんと壮大でロマンチックなことでしょう。

どうぞ、皆様もこの機会に市内の文化財を訪れるとともに、琉球料理や芸能を楽しみながら、ロマンあふれる琉球のおもてなしの歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

那覇市長 城間 幹子

